

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090300191		
法人名	社会福祉法人 大志会		
事業所名	地域密着型認知症高齢者グループホーム上田大手門		
所在地	長野県上田市中央2-3-8		
自己評価作成日	平成28年9月16日	評価結果市町村受理日	平成29年2月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成28年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様9名の暮らし方を尊重し、個々に活動出来る様工夫している。一人ひとりの日課や役割を継続できるよう、職員と一緒に活動している。個々の願いや希望を叶える為に関わる職員が協力し、実現に繋げている。複合型施設の特性を活かし、特養、有料老人ホームの入居者様と日常的に交流が図られている。 看取りまで暮らし続けられるホームとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

5階建ての複合施設(有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、グループホーム)の3階に位置する当施設は、施設看護師が常駐し、医療(週3回の往診)の充実と、状態によって、有料老人ホーム、特別養護老人ホームへの住み替えも可能という利点がある。また、グループホームが中心となり地域とのつながりを大切に、大手門地区の注目の施設になっている。利用者9名に対し個別にきめ細かな配慮とケアがなされ、暖かな雰囲気の中ゆったりとした時間が流れている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(大手門の家)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人理念のほかにグループホーム独自の目標を掲げミーティング時に唱和し、目標を実践に繋げている。</p>	<p>法人全体の理念の他、グループホーム独自の理念を職員全体で考え、毎年見直し、より良いものになっている。また、職員一人ひとりがその理念を携帯し、日々の業務の中で常に再確認しており、ケアに反映できている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域のお祭り、イベント等へ参加し、施設のイベントを開催する際は施設を開放し、地域の方々が参加できるようにしている。今年は「上田わっしょい」へ連を作り入居者様も踊りに参加しました。</p>	<p>自治会に入り、地域とのつながりを大切にしている。花植えや屋上の野菜作りの手伝いにボランティアが来たり、クリスマスには教会の方が讃美歌を歌いに来る。また、小学校の音楽会に招待されたり、積極的に地域と関わりをもち、地域の中で大切な存在になっている。(上田わっしょいにも利用者と職員が参加している。)</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>高校生の実習、ボランティア活動の場として実践を通し認知症について理解して頂けるよう働きかけている。音楽、花植え等様々なボランティアの方が定期的に来訪している。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回会議を開催し、施設近況報告も含め意見交換を行い、サービス向上に繋げている。ご家族へ毎月送付するお便りに会議内容を盛り込むようにしている。</p>	<p>2ヶ月に一度、運営推進会議が開かれ、家族、民生委員、区長等が参加し、報告と意見交換をし、地域にグループホームを理解してもらう取り組みができています。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>日頃の様子や不明な点を運営推進会議や窓口へ出向き相談するようにしている。</p>	<p>複合施設ということで、新たな取り組みの中、市と連携を取り、随時報告と相談をし、取り組みを積極的に伝えている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	環境の整備や用具を利用し拘束をしない工夫をしている。施設全体の委員会の中に身体拘束委員会があり、施設全体で拘束しない為の話し合いを行っている。	複合施設全体で身体拘束委員会をもち、グループホームでも職員会の時等に研修を行い、拘束ゼロを推進している。5階建ての3階に位置するグループホームなので、エレベーター使用には工夫して対応している。施錠せず、利用者の行動を見守ることで危険回避を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を通して個々の意識付けを行っている。職員がストレスを抱えていないか会話の中で確認し、業務に支障の無いようシフト調整している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見等が必要な事案については市役所、社協へ相談するようにしている。理解し易い資料を基に制度について理解できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設の概要等説明し、施設見学をして頂き、雰囲気や日常の様子を見て頂くようにしている。契約時には十分時間をかけ納得して頂いたうえで入居して頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には管理者や職員から声をかけるようにしている。体調変化時の意向確認を主治医、施設多職種を交え話し合いを行い、希望があれば同施設内の特養へ住み替えが出来ることを伝えている。	来所時に家族と話し、意向を確認することはもちろん、2ヶ月ごとの家族向けのアンケートも実施して運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミニミーティングを行っている。また、業務についてや、出来るだけ希望に沿えるよう、日々変化のある入居者様の支援方法について話し合えるようにしている。	年2回、個別に職員が施設長と話す機会がある。また、日頃より、管理者は、言いやすい環境を整備し、ケアについても随時コミュニケーションを取り、迅速な対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者がシフトに入ることで現状の把握を行い代表者へ報告、改善、調整出来る様にしている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修へ参加し、個々のスキルアップが図れるようにしている。認知症状について学べるよう毎月の会議時にミニ勉強会を行うようにしている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修を通して他施設との交流や情報交換が図れるようにしている。他事業所との連携や情報共有を行いサービスの質が向上できるよう取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>常に話しやすい雰囲気づくりを行えるよう努めている。ご本人の言動や表情から不安となる要素を関わる中で把握し、職員間で情報共有を行いながら、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の心情や思いを受け止めホームで、どのように暮らして欲しいのか、細かな要望を聞き取り実現できるようにしている。2か月に1回偶数月に、ご家族アンケートの実施を行いホーム入口にポストを設置し投函して頂いている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ホーム内で行えることは実現するようにしている。必要な用具、医療系のサービス等の導入も行ってはいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人との繋がりと捉え、出来る事は職員も一緒にいき、お互いが助け合える関係作りを行っている。ご本人が出来ることは奪わないようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会やその他行事へ参加依頼をし、細かな近況報告を行い情報の共有、支援方法についてご家族も交えて意見交換している。ご家族アンケートの要望等活かせるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通して知人、昔からの仲間と面会が行えるようにしている。ご家族と外出時には馴染みの場所へ行かれることが多い。	出来るだけ馴染みの関係を継続できるよう、支援し、家族等に昔の馴染みの関係を聞いたり、本人の何気ない話の中から馴染みの関係を探り、支援している。上田公園に行ったり、自宅へ帰って外泊する等を家族にも協力を得ながら行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が声を掛け合えるよう職員が介入し調整している。また、一人ひとりが発言しやすいように食事やお茶の時間、何か活動する際は職員が隣に座するなど、ゆっくり会話ができるようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去相談時には今後の支援について方向性を一緒に検討しアドバイスできるようにしている。退去後ご家族から相談があれば対応するようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活ペースで暮らせるよう支援している。起床時間や食事の好み等意向に沿えるようにしている。日々関わる中で発した言葉や思いから、ご本人が望む暮らしが実現出来るようご家族の協力も得ながら工夫している。	おおまかな日々の日程はあるが、本人の意向に合わせて特に朝は起こすことなく起きたい時に起き、食べたいときに食べるようにしている。また、本人の意向の把握が困難な方には表情を見たり、家族の協力を得ながら家族と一緒に居られる安心な時を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の言葉やご家族、認定調査資料、前任ケアマネージャーから情報収集を行い、ホームでの暮らしに役立てている。特にご家族とは情報を共有し暮らし易くなるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24Hシートの活用、介護記録と連動し活動状況の把握、日々の変化を気付けるよう支援方法の振り返りをしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングの中で一人ひとりの変化はないか随時話し合える場を設け、支援方法の見直しを行いプランに繋げている。実施モニタリング表も活用している。	毎日プランの実施とモニタリングを月1回の職員会議にて全員で評価し、3カ月に一度担当が作成した24時間シートと合わせてプランの見直しと決定を行っている。また、家族、本人の意向も合わせてプランに反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録(24Hシート)へご本人が発した言葉、行動、気づきを個別に記載し、職員間の情報の共有や支援方法に活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調変化等急を要する際は施設看護師、協力医と連携が図られている。時々で必要と思われる支援(用具、訪問マッサージ)の導入を行っている。単身の方等、葬儀等お看取り後のどのようにしていくかを後見人制度の説明も行い相談業務に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で入居者様が関われる地域のお祭り等の情報を頂き参加できるようにしている。地域との繋がりが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科往診が週3回、精神科往診が月2回あり、体調変化時に主治医と家族、施設看護師、管理者がご本人、家族の意向に沿って治療方針を話し合えるようにしている。</p>	<p>入所時に、かかりつけ医については、確認をとり意向を大切に選んでもらっている。協力医は、週3回の往診、精神科は月2回、状態に応じて診察してもらえるシステムになっている。また、複合施設であるため、看護師常駐なので常に医療と連携が取れる。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設看護師と常に情報の共有を行い日々体調変化について相談できる体制となっている。医師へは定期往診にて健康相談が行えている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>週3回の往診時に細かな体調変化も主治医に伝え、早期に治療開始できるように働きかけている。入院が必要な時には病院、家族と連携を図り、また、入院後の状態把握を行い早期退院が行えるようにしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>『看取りに関する方針』の説明を行い、看取り同意書、利用者の自己決定(生前指示書)の同意をご本人、ご家族と入居時に取決めしている。体調変化が見られる時にはその都度、意向の確認をご家族と行うようにしている。</p>	<p>入所時に、看取りの確認をとると共に、経口摂取が困難になったときは、家人、協力医、看護師、管理者と連携を取り、日々変化する本人、家族の意向を大切に、納得のいく看取りを実践している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署へ依頼し救命講習を受講し急変時の対応を取得している。夜間帯の急変時はオンコール対応で当番看護師の指示の下、行動している。特に夜間帯の急変時の対応については施設内で研修を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署の協力を得て日中、夜間想定防災訓練を行っている。緊急連絡網にて災害を想定した緊急連絡訓練も行っている。</p>	<p>年2回の、日中、夜間想定防災訓練を行い、地域の方(自治会長、近所の薬局等)にも参加頂き、協力して欲しい事や、消火器の位置等を説明する機会をもっている。また、防災頭巾をかぶり、利用者の誘導も実際に行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけのタイミングやプライバシーを損ねないように配慮している。個人情報や守秘義務についても十分注意し取扱いしている。	利用者の状態を見ながら、的確な声かけと、居室は開けてあるが暖簾でプライバシー確保を行っている。また、プライバシーを大切にしながらも、部屋に入りっぱなしにならないように配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で出来る事、できない事の見極めを行い、一人ひとりの力を発揮できる場面作りを行い、自己選択、自己決定できる取り組みを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルに合わせて支援している。その時々で行きたい場所、やりたい事が行えるよう柔軟な対応を心掛けている。入浴時間については希望に添えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着はご本人が選択できるよう声かけし、一緒に選ぶこともある。外出時は特に身だしなみを整え、お洒落をして出かけている。理髪については訪問理容を利用し、好みのヘアスタイルにして頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食盛り付けを職員と皿を選ぶことから盛り付けまで、会話を楽しみながら行っている。食後の下膳、テーブルを拭くことも日課となっている。昼食、夕食は職員も同じ食事を入居者様と一緒に摂ることで一緒に暮らす仲間としての意識作りが出来ている。	屋上にある畑から野菜を収穫し、食卓にのることもあり、食べる意欲を大切にしている。また、利用者が率先して職員の支援を受けながら、盛り付け、配膳、下膳などを行っている。月2回は利用者のリクエストに答え、皆で調理し満足のゆくものを食べることができる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録を個別に記録し把握している。体調に合わせた食事形態を柔軟に提供できるように管理栄養士とその都度相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声かけを行い、一人ひとりに合わせた支援を行っている。義歯の方は夕食後洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>24Hシート、介護記録の活用によって排泄パターンを把握し、出来る限り失敗が無く、トイレで気持ち良く排泄が行えるよう支援している。</p>	<p>排泄パターンを把握するため、リハビリも兼ね、1時間おきにトイレ誘導をしたり、必ず付き添いでトイレ誘導する方等、出来るだけ失敗なく気持ちよく生活できるよう対応している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便コントロール表を活用し把握している。水分補給の促しだけでなく職員が一緒にお茶を飲むなど工夫している。便秘による様々な機能低下が予防できるよう生活の中で活動量が増やせる工夫を行っている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>希望に合わせて入浴して頂いている。数種類の入浴剤を用意し好みのものを使用し、ゆっくり入浴して頂けるよう工夫している。</p>	<p>寝浴、個浴、リフト浴等、状態に合わせて、すべてに対応できるような風呂設備になっている。週2回、午後1対1での入浴が基本だが、本人の意向に合わせて、対応している。また、季節ごと、菖蒲湯、ゆず湯、リンゴ湯等を提供し、楽しんで入浴できるように工夫している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床、就寝時間は決まっていない。一人ひとりに合わせた居室の温度、明るさにしている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬内容をファイルしている。飲み忘れや配薬ミスが無いよう職員が手渡し、飲み込むところまで確認している。空き袋はトレーに残し二重チェックを行っている。薬の変更後は体調の変化はないか等の記録をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で発せられる言葉から、個々の力が発揮できる場面作りや言葉がけを行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの行きたい場所へ行かれるよう計画からご本人を交えて計画を立てるようにしている。ご本人の希望が叶えられるようご家族に協力して頂くこともある。	土地柄もあり、現在の真田丸効果もあり、催し物も多く、外出する機会が多々ある(七夕祭、上田城址の花見、そばを食べに外出等)。また、月2回の食事作りの際は、買い物に出かけている。近所に回覧板を渡しに行きながら、近所の店でおやつを買うこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設事務所でやっている。外出時、買い物の際は、ご自分で支払手続きが行えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族と電話で話す等、ホーム内の電話を使用し自由に話ができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた植物をテラスで育てたり、ダイニングへ花を飾る等くつろげる環境作りを行っている。対面型のキッチンから食事の準備を行う音や匂いで生活感を感じられるようにしている。	フロア中央にはキッチンがあり、全体を見渡せ、利用者も職員の暖かなまなざしを感じながら、ソファや椅子でくつろぎ、壁には季節を感じる飾りがあり、テラスの植物も大切に育てられていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同TV前やダイニングにソファを設け、好きな時間に好きな場所で過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納家具、床頭台、ベッド、は各居室に設置されている。居室内の家具等は遣いやすいよう配置は自由に行っている。家族やペットの写真を飾られている方が多い。	すっきり整理された居室には、家人との思い出が詰まったものや、大切な方の写真等飾られ安心して過ごせる空間になっている。窓の外には、色付いた木々が見え、季節を感じさせる風景が広がっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険性から床は滑りにくく、柔らかい素材となっている。ダイニングを中心に個室9床、トイレ2か所はホーム入口と奥に設置されトイレ扉には「お手洗い」と大きく表示され分かり易くなっている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12 13 14	職員個々が外部等研修へ出席し、学べる機会が少ない。	職員個々が質の向上を図る為に研修や勉強会へ参加する。	1. 職員のスキルに合わせた研修案内、提案を行い自己研鑽に繋げる。 2. 個々の振り返り作業を行う事でスキルアップする為に何が必要か考える。 3. 学んだ事を職員間で共有する為に勉強会を開催し、人に伝える力を養う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。